

市のホームページには50近い伝説や民話が紹介されていて、その中に「河童の証文松」があります。

昔、吉崎村(今の共興地区吉崎)の「新掘淵」という所にいたずら好きな河童が住んでいました。河童がそばを通る人や馬にひどいことをするので、

近くの宝珠院のお坊さんが捕まえ、山門にしばりつけ反省させました。河童はこれからいたずらをしていない、と証文を書いて約束を守るため松を植え、村人たちはこれを「河童の証文松」と呼んだと言います。

現在、証文松を見ることはできませんが、枯れ

ていたものの2代目の松が昭和50年ごろまでありました。

その後の耕地整理や川の改修工事などで、証文松のあった場所は分かりにくくなっています。

1921(大正10)年に出された『匠 探訪』にこの伝説が記載され、地域では古くから語り継がれていたのでしょう。

宝珠院は現在、墓地だけになっていますが、長谷(共興地区)如来寺の記録に見られます。

この伝説が生まれた背景は、川を挟んで隣接する吉崎、長谷両村の水争いか、川渡いを巡る問題などが考えられます。

長谷にも隣の野手(野田地区)と関係すると見られる「横川の振り袖橋」の伝説があって、50年ほど前に聞いた覚えがあります。

(市文化財産委員会委員)

依知川雅一

問 秘書課広報広聴班

☎ 73・0080



宝珠院跡